



ともに学び、ともに育ち、ともに育てる「おくの義務教育学校」

計画の目標

- 子どもたちの9年間の成長を支える学習環境を整える
- 低学年から高学年まで幅広い学年を受け入れる場所をつくる
- 地域と共にある学校づくりとして、学校と地域とが関わりを持てる場所を計画する

配置計画のポイント

- ①地域施設と学校のつながりを高めるアプローチ
- ②既存の桜並木を活かした通学路「さくらアベニュー」
- ③安全性の高い歩車分離の動線計画
- ④低学年の児童も安心して遊べる「あそびの広場」

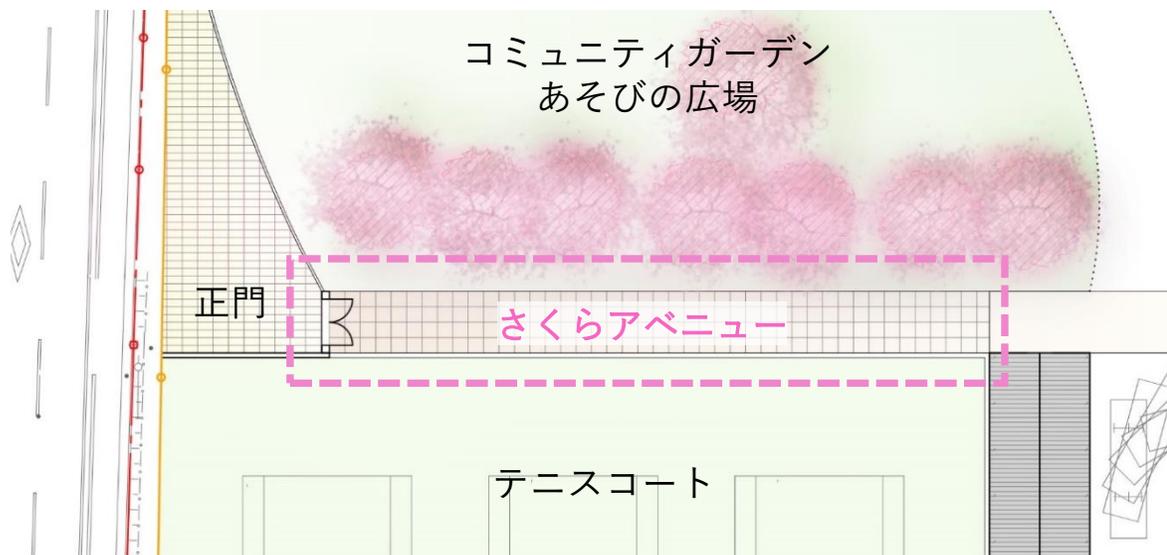
① 地域施設と学校のつながりを高めるアプローチ

- ・ 学校と生涯学習センター及び奥野運動広場との連携を高める新たなアプローチをつくります
- ・ そのアプローチが、さらにグラウンド側へと続いていく校舎配置としています

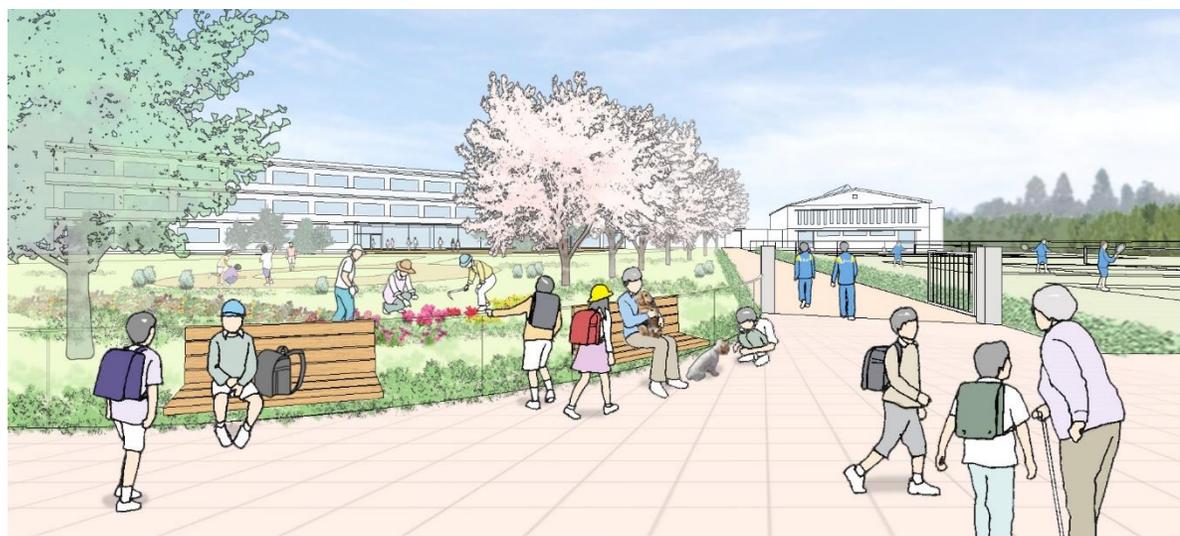


② 既存の桜並木を活かした通学路「さくらアベニュー」

新しいアプローチは、既存の桜並木の下を歩きながら登校できる、楽しく豊かな屋外空間とします



既存の桜並木の様子



既存校舎から見える桜並木

③ 安全性の高い歩車分離の動線計画

- ・ 車両と歩行者、自転車の動線を明確に分離することで、安全性を高める計画とします

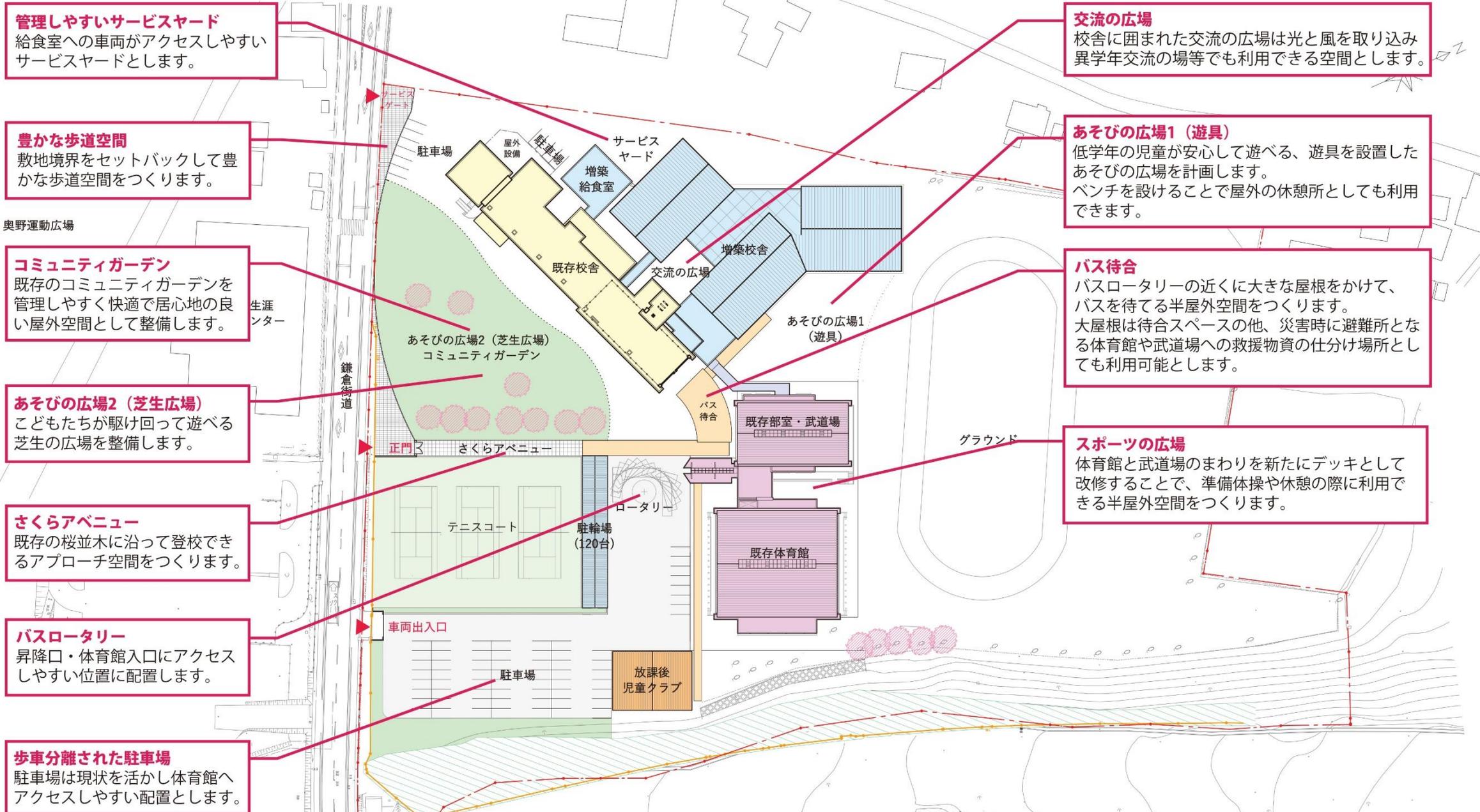


④ 低学年の児童も安心して遊べる「あそびの広場」

- ・職員室の前に、見守りの目が届く遊具を設置したあそび場「あそびの広場1」を整備
- ・コミュニティガーデンの整備と合わせて、子どもたちがかけ回って遊ぶことのできる芝生の「あそびの広場2」を整備



あそびの広場1 (遊具) のイメージ



平面計画のポイント

- ①回廊動線により既存校舎と増築校舎を結ぶ
- ②9年間の成長を実感できる教室環境の変化
- ③図書室を学校を中心に配置しアクティブラーニングを支える
- ④学校全体を見守る職員室の配置
- ⑤教科教室のまとまりを作り、教科の特色を活かす教室配置
- ⑥インクルーシブデザイン
- ⑦誰でも使いやすい施設環境
- ⑧使いやすく管理しやすい地域利用ゾーンのまとまり

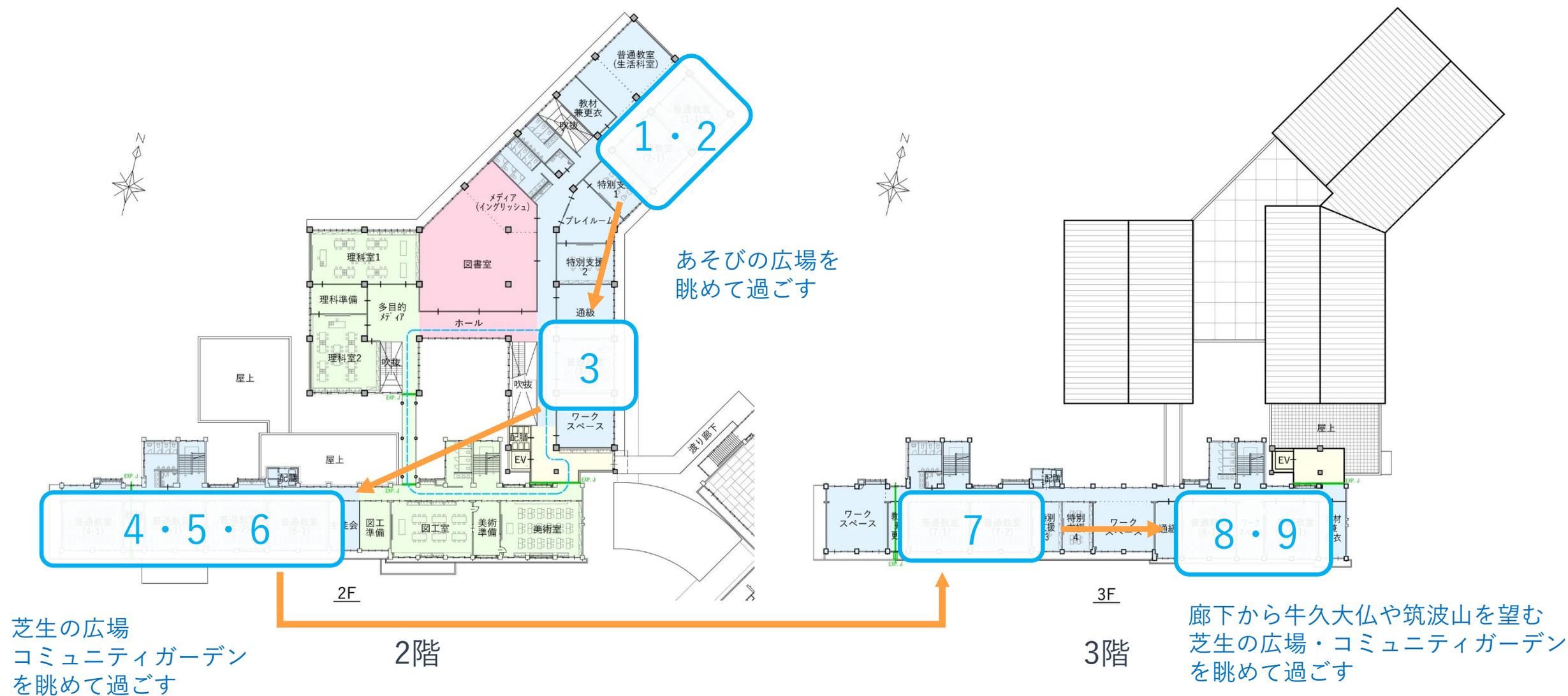
① 回廊動線により既存校舎と増築校舎を結ぶ

- ・ 増築校舎と既存校舎との接続箇所を2箇所とし、スムーズに校内を移動できる回廊動線をつなぎます
- ・ 回廊動線で囲まれた中庭（交流の広場）は、校内に光や風を取り入れる快適な屋外空間として整備します



② 9年間の成長を実感できる教室環境の変化

教室からの眺望の変化で9年間の成長を実感できる環境をつくります



③ 図書室を学校の中心に配置しアクティブラーニングを支える

- ・ 図書室は増築校舎2階中央の、どの学年からもアクセスしやすい場所に配置します
- ・ 児童生徒が本に触れる機会を増やし、主体的に図書やメディアを利用して自学自習が行える環境を整備します



- ・ 図書室と一体的にイングリッシュルームを配置して、英語に対する好奇心を促し、英語に触れる機会を増やします
- ・ イングリッシュルームはタブレットやスクリーンを設置し、発表や調べもの等の多様な学習を行えるメディアスペースとしても整備します



内装木質化の図書室参考イメージ

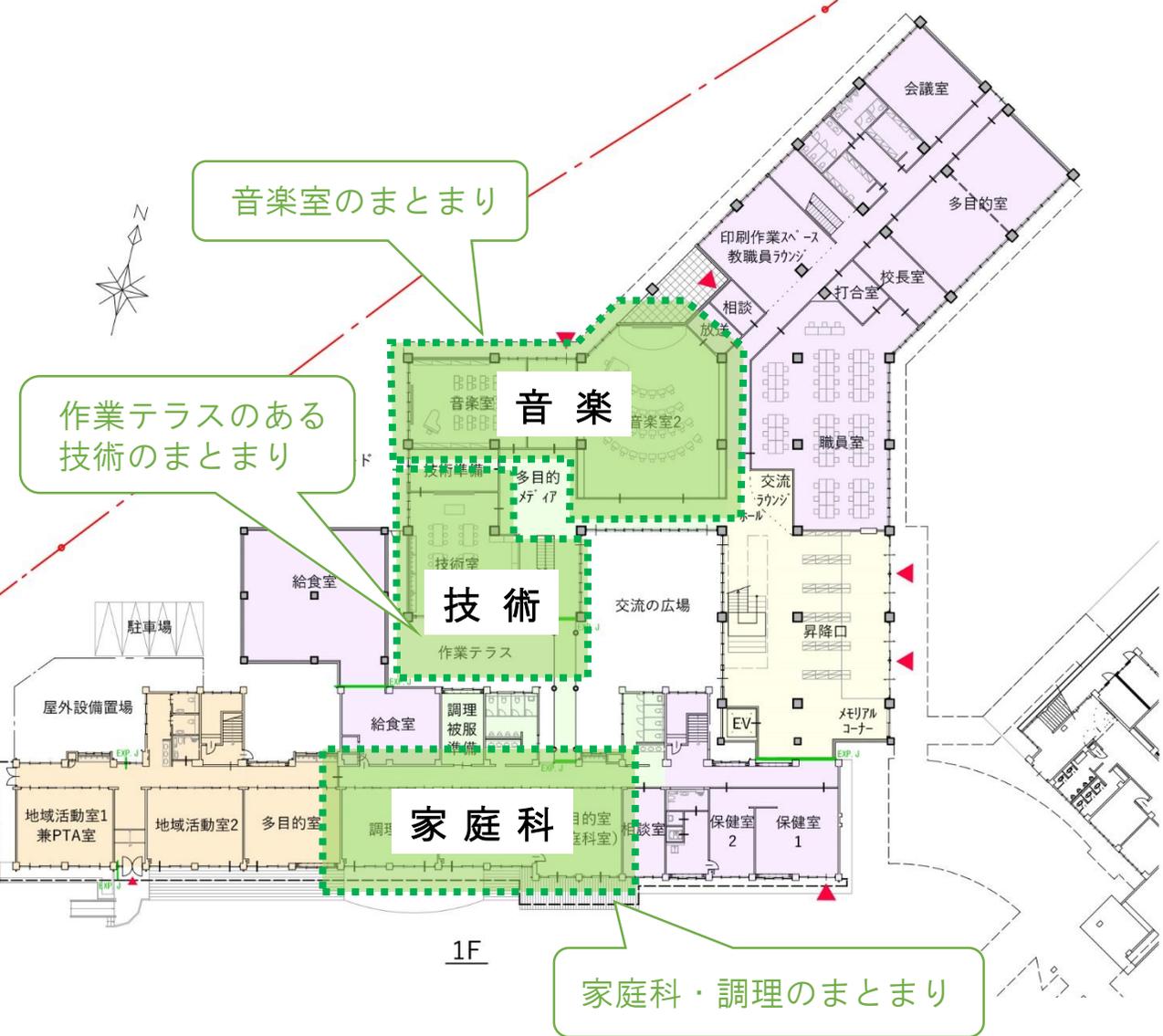
④ 学校全体を見守る職員室の配置

登下校、グラウンドを見守ることができる位置に職員室、校長室、保健室を配置します



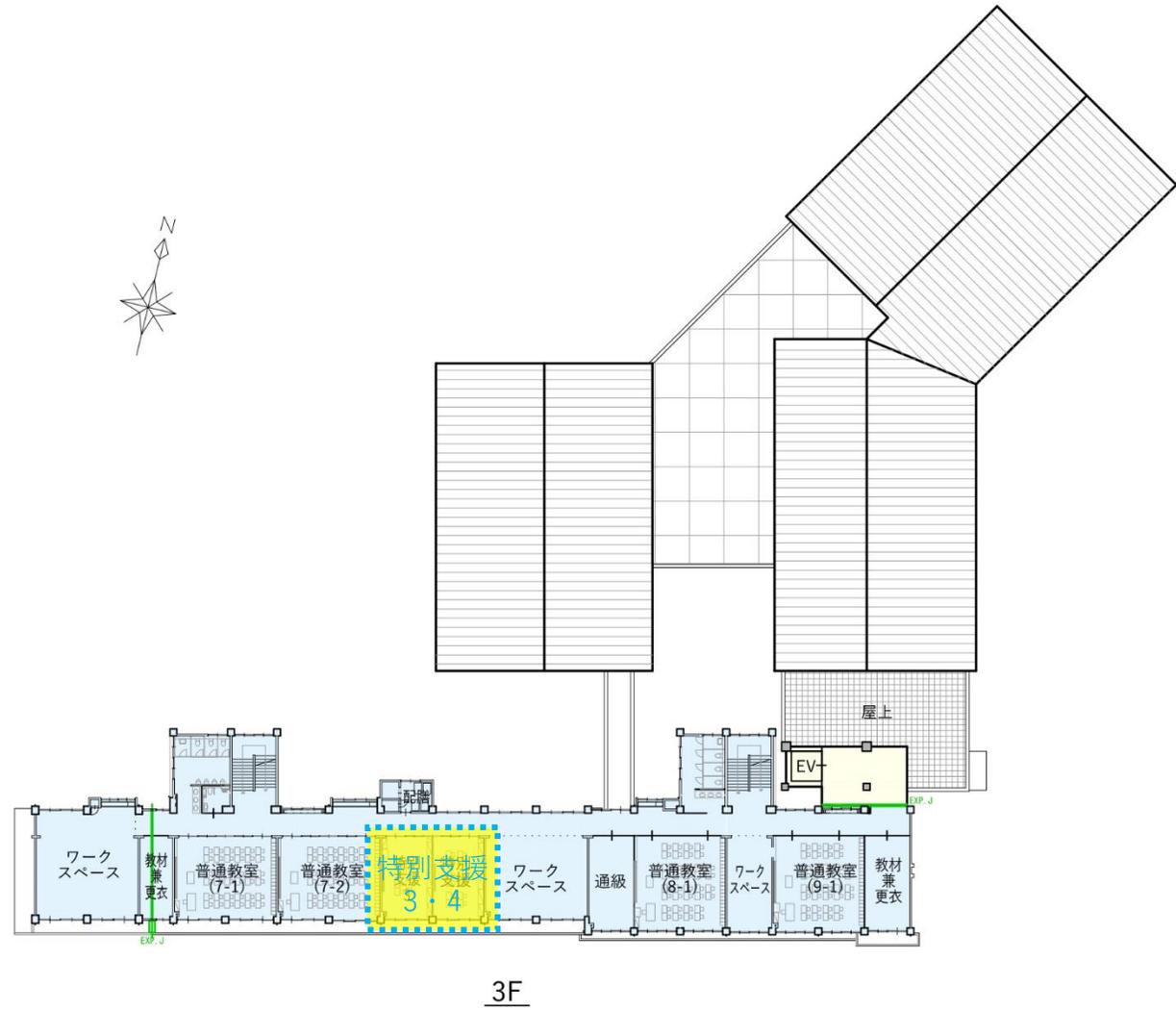
⑤ 教科教室のまとまりを作り、教科の特色を活かす教室配置

学校の中央に各学年が利用する特別教室を配置し、教科ごとにまとめることで教科の特色を活かす計画とします



⑥ インクルーシブデザイン

特別支援学級の子どもは状況に応じて皆と勉強したり、個別に支援学習が受けられたりするよう普通教室に近い位置に分散配置とします



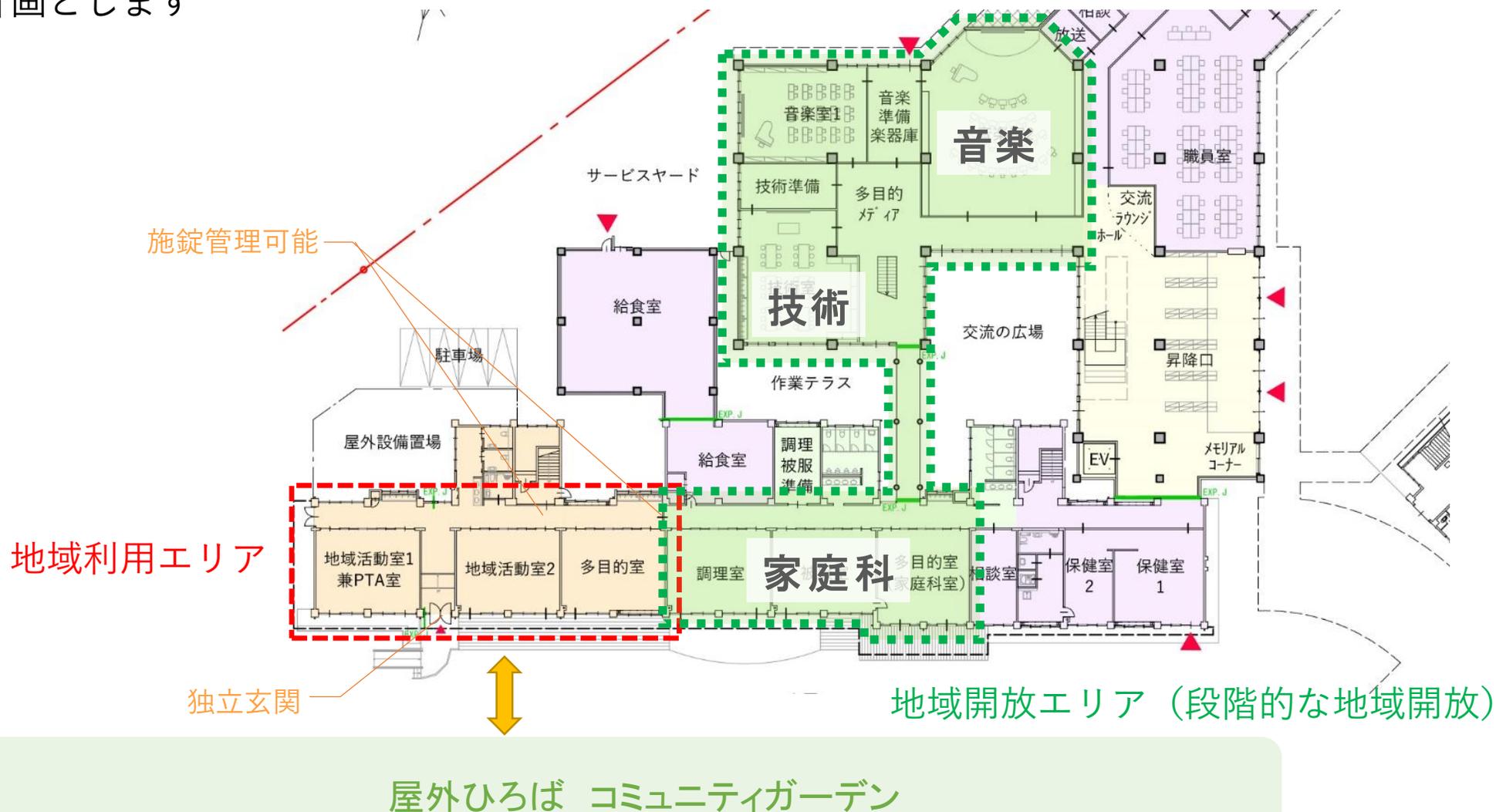
⑦ 誰でも使いやすい施設環境

- ・昇降口のすぐ近くで、学校の中央の位置にEVを設置することで、校舎内の円滑なバリアフリー動線を確保します
- ・増築校舎2階から既存武道場への渡り廊下を設置することで、EVがない武道場へのバリアフリー動線を確保します
- ・多機能トイレを各階の適所に配置します



⑧ 使いやすく管理しやすい地域利用ゾーンのまとめ

- ・ 既存校舎1階に地域活動にも使える諸室をまとめ、屋外のひろば等と絡めた交流の場をつくります
- ・ 1階地域利用ゾーンに隣接するように地域開放に使える特別教室を配置することで、段階的な開放を可能とする配置計画とします

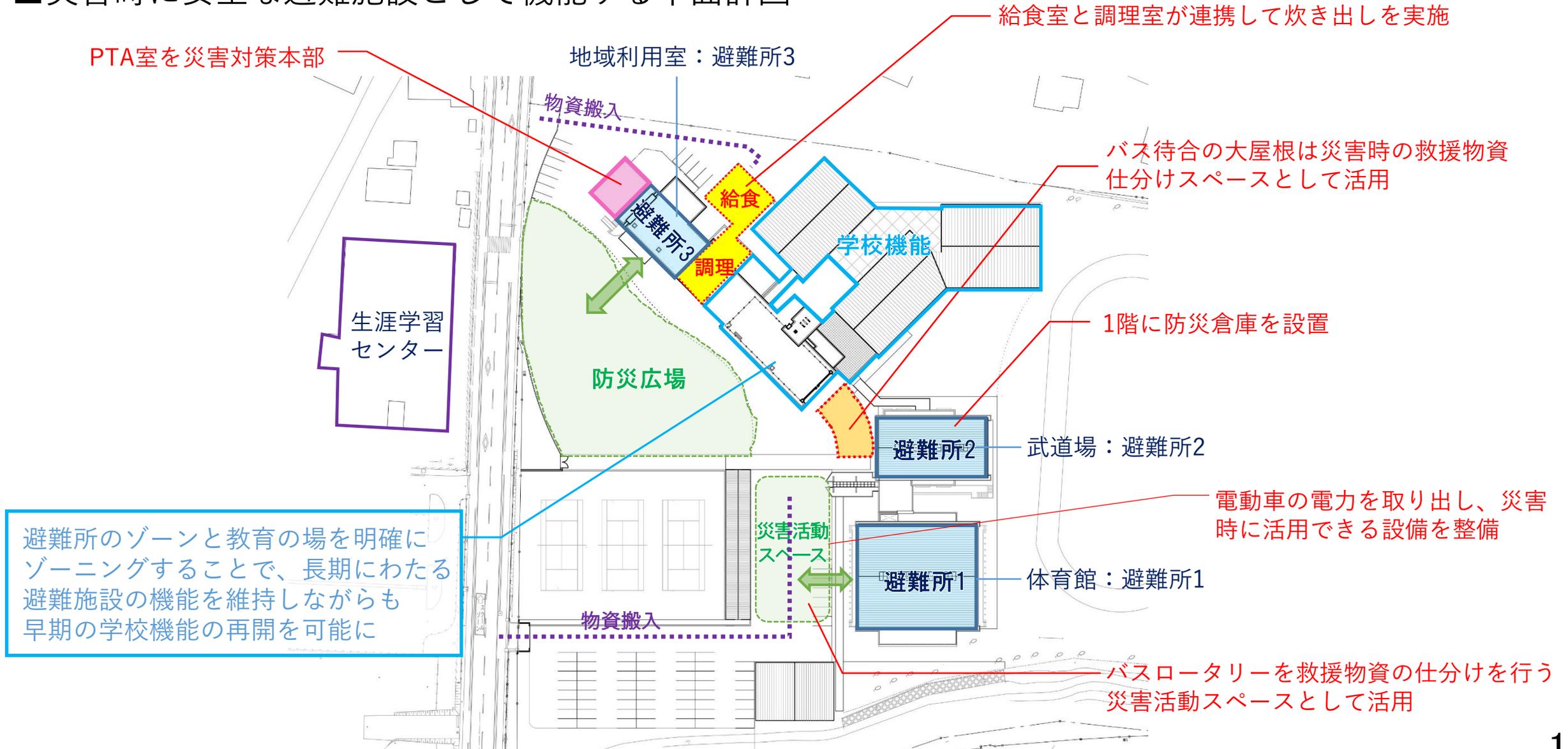




ワークスペースの使われ方(イメージ写真)



■災害時に安全な避難施設として機能する平面計画



■自然の恵みを活かすパッシブシステム

- ・中庭からの自然採光により、日中の照明消費電力を削減します。
- ・増築校舎は庇によって日射のコントロールを行うことで、空調負荷を低減します。

■ゼロカーボンシティ（二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す）への貢献

- ・校舎の構造は頑丈な鉄筋コンクリートとしますが、内装に木材をふんだんに用いて木質化することで、木のぬくもりのある教育空間にすると同時にゼロカーボンシティへの貢献を行います。
- ・太陽光発電等の再生可能エネルギー利用の導入を行います。

■環境教育

- ・太陽光パネルは屋外の屋根付歩廊等の普段子どもたちの目にする場所にも設置することで、環境教育に役立っています。
- ・太陽光パネルの発電量は昇降口にモニターを設置し表示を行うことで、子どもたちの省エネ意識向上に貢献させます。



内装木質化イメージ

ライフサイクルコストを抑える総合的な検討

■既存を最大限利用しイニシャルコストを軽減

- ・ 仮設校舎を使わない計画で総事業費を低減します
- ・ 増築面積を抑えた2階建て校舎とすることで構造コストを低減し、工期短縮を図ります
- ・ 既存外構等で現状のまま使用することが可能なものについては、不要な工事を最小限に抑え、コストを削減します
- ・ 部材寸法や材質をできるだけ統一し、汎用品を最大限に活用します

■効率的な設備を利用しランニグコストを低減

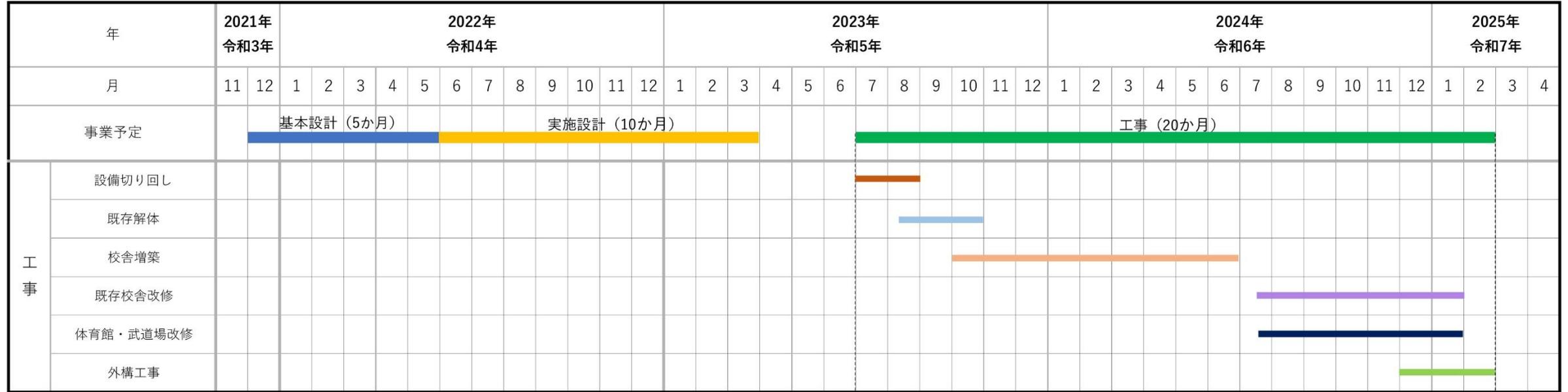
- ・ 複層ガラス、Low-Eガラスを採用することにより効率的な断熱を行い、冷暖房負荷を削減します。
- ・ 空調の使用期間が長い職員室、地域利用室を集約し、無駄のない設備システムとします。
- ・ 全熱交換器により室内排気と取入れ外気を熱交換させることで空調負荷を軽減し、新鮮な外気を取り入れます。

■維持管理費の削減

- ・ 庇の設置により外壁劣化を防ぎ、バルコニーを設置することでメンテナンスしやすい計画とすることで維持管理費を低減します
- ・ 照明器具は高効率製品を採用し、省エネ・長寿命化を図ります

安全で合理的な建て替え計画

事業工程表案

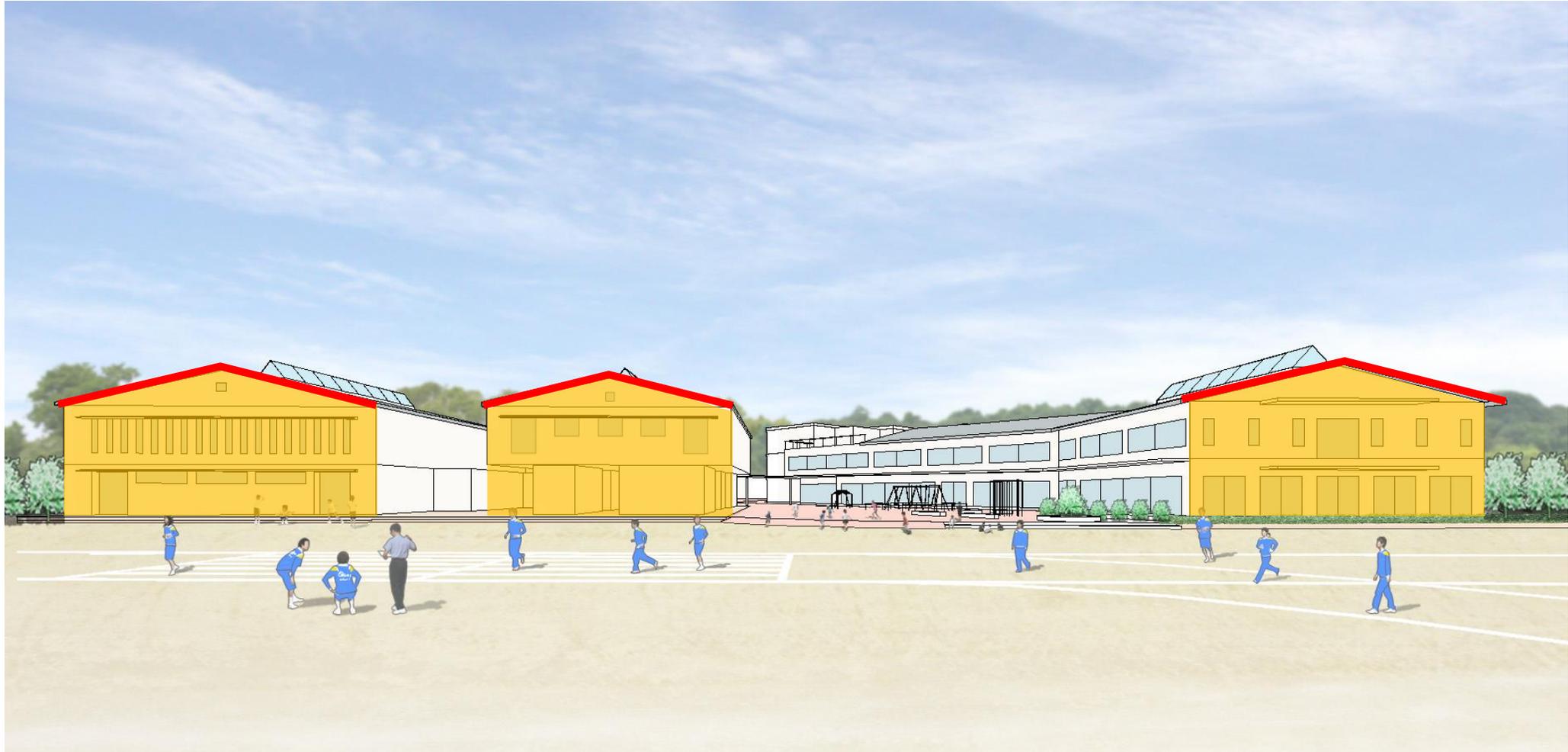


外観イメージ

- ・増築校舎は、グラウンド側に向けた「おくの義務教育学校」の新しい顔となります
- ・校舎の配置を体育館・武道場の軸線に揃え、屋根を切妻屋根とすることで、体育館・武道場と連続する一体感のあるデザインとします



グラウンドからのイメージ



既存の体育館・武道場と連なるルーフスケープのイメージ
(プロポーザル時のイメージパース)

外観イメージ

改修により生まれ変わる既存校舎は、思い出を残しつつ新たな機能と景観をつくります



鳥瞰イメージ